

校長室からのお知らせ

5月29日号 NO.8

岸和田市立浜小学校
校長 尾野 武志

難しい日本語

「貴様」や「お前」が現在では、相手を見下した失礼なことばになっていますが、昔はとても丁寧なことばで相手を敬うために使われていたそうです。

確かに「貴様」の漢字は、「貴い(とうとい・たつとい)」に「様」を足していますし、「お前」も元々は「御前(ごぜん・おんまえ・みまえ)」だったそうなので、残念なことに時代とともに「貴様」も「お前」も格が下がってしまったようです。

特に、「お前」は子ども同士のけんかによく使われており、相手を挑発したり馬鹿にしたりする際に、聞こえてきます。気持ちがヒートアップしたお子さんが、大人に向かって「お前」と言っている姿は、見てもとても残念な気持ちになってしまいます。

日本語は、世界で一番難しい言葉だと聞いたことがあります。相手のことを呼ぶのに、「貴様」に「貴殿」に「貴公」に「貴君」、「お前」や「お前さん」、「あなた」や「あんた」、「君」や「我」、「そちら」や「お宅」、「こいつ」や「こやつ」や「てめえ」、「おのれ」に「おんどれ」、「自分」や「あんさん」、古風な感じで「汝(なんじ)」や「其処許(そこもと)」や「御主(おぬし)」や「此方(こなた)」など、80種類以上もあるそうです。一つ一つに深い意味があるので、使う場面や相手を間違えると恥をかいたり怒らせたりする可能性が高いです。

英語の「YOU(ユー)」のように誰にでも何処でも使える便利な言葉が、日本語には見当たりません。

小学校では、国語や算数などの勉強をしますが、教科の学習と同じくらい相手の人や人の気持ちを大切にすることを学んでほしいと願っています。世界で一番難しいと言われている日本語をその場その場でうまく使いこなせるようになることができれば、言葉のやり取りだけで自分自身の心も相手の心も穏やかにすることができると思います。相手を幸せにできる言葉の達人を育てましょう。

